

ぜんそく 気管支喘息

川口市立医療センター
呼吸器内科

おぞえ りょうすけ
尾添 良輔



気管支は肺に空気を送るための通り道（気道）で、パイプのような役割をしています。気管支喘息は、気管支が慢性的に炎症を起こし、空気が通りにくくなってしまふ病気です。息苦しさや痰の増加などの症状があり、特に夜間から早朝にかけて起こりやすいことが特徴です。日本では子どもの8～14%、大人の9～10%が喘息を患っているとされています。

気管支喘息と診断された場合の治療の基本は「症状が起こらないように毎日行う治療」と「症状や発作が起きたときに行う治療」に分けられます。前者はステロイドや長時間作用する気管支拡張薬の吸入を中心に気管支の炎症を抑え、後者は短時間で作用する吸入薬やステロイドの内服、点滴投与で狭くなった気道を広げます。症状が無くなれば喘息は治ったと思われるかもしれませんが、気道の炎症は続いているので、症状が起こらないように吸入薬を継続することが重要です。

また、喘息の5～10%は重症喘息とされ、高用量の吸入ステロイドを含む複数の長期管理薬を用いてもコントロールが困難な喘息と定義されています。重症喘息の診断においては、吸入が正しく行えているのか、本当に喘息なのかを改めて確認する必要があります。

近年は、免疫機構に直接働きかけて治療を行う生物学的製剤と呼ばれる新たな治療薬が多く登場しており、当院では重症喘息のかたに対し、こうした治療も行っています。

症状がないからこそ受けよう！「がん検診」

一生のうちに日本人の2人に1人はがんにかかるといわれており、誰でもがんにかかる可能性があります。

健康には自信があるから大丈夫！！

特に身体の調子は悪くないので検診は受けなくていいよね！

このように考えているかたはいませんか？ほとんどのがんは初期段階では症状がないことが特徴です。「体調万全」でも、がんが潜んでいる可能性があります。症状がないときに、がん検診を受けるからこそ早期発見することができ、早期治療することで多くのかたが助かることが分かっています。そのために、がん検診を定期的を受診しましょう。

10月は「がん検診受診率60%達成に向けた集中キャンペーン月間」です

本市では令和6年2月末まで、がん検診を実施しています。例年、12月～2月は医療機関が混雑し、予約が取りづらい状況です。早目の予約と受診をお勧めします。また、検診の結果、精密検査や治療が必要と判定された場合には、必ず医療機関を受診しましょう。

検診	対象者	主な検査内容
胃がん内視鏡	50歳以上の男女	内視鏡検査
大腸がん	40歳以上の男女	便潜血検査
肺がん・結核	40歳以上の男女	レントゲン検査
子宮頸がん	20歳以上の女性	視診・内診・細胞診
乳がん	40歳以上の女性	視触診・マンモグラフィ検査
前立腺がん	今年度50歳、55歳、60歳、65歳、70歳、75歳の男性	問診・血液検査



※詳細は「川口市けんしんガイドブック」をご確認ください。
健康増進課 ☎048-256-1135 FAX048-256-2023

▲川口市けんしんガイドブック

イベントスケジュール

7日(土) **10月**

第22回ボランティア見本市
場 キュボ・ラ広場

15日(日)

荒川ふれあいまつり2023
場 浮間ゴルフ場 →8ページ

27日(金)～29日(日)

川口市市産品フェア2023
場 川口オートレース場 →2ページ

11日(土) **11月**

第3回川口花火大会
場 荒川運動公園 →29ページ

川口市 広報課 職員による
ちょっとくだけた!? 市政情報番組
85.6 MHz City Information
FM Kawaguchiで放送中
放送日：平日の10分間…10:00、13:50、17:50、20:00

LINE ID @kawaguchi.city
川口市 公式アカウント
※おらり川口情報メールと同じ内容の受信も可能

LINE 暮らしに役立つ ぜひご利用ください
きらり川口情報メール



パリのピアノに魅せられて
清水 信守さん
しみず のぶもり
ピアニスト／清水ピアノスクール主宰

88の鍵盤から弾き手によって多彩な音色が生み出される「楽器の王様」ピアノ。そんなピアノに魅せられた一人、清水信守さんは川口で活動するピアニストだ。
川口で生まれ育ち、活発でありながらも人見知りだった幼少期。とりわけ音楽が身近にある環境ではなかったが、6歳の時に偶然父親の知り合いから譲り受けたのがピアノとの初めての出会いだった。小学生になると、ピアノ教室に通うように。「練習は大変でしたが、曲が弾けたときの達成感や少しずつ上達していくのが楽しくて」。自然とピアノを弾くことが日常になっていった。

転機は中学生の時。ピアニスト横山幸雄さんのコンサートで初めて聴いた美しくも緻密に構成された演奏。今までにない感動と興奮を覚え、「あんな風に弾いてみたい」とピアノへの熱意に火がついた。次第に端正で上品、そして洗練されたフランスのピアノ音楽に強く惹かれ、音楽高校を卒業後は、憧れの巨匠アルフレッド・コルトーが設立したエコール・ノルマル音楽院で学ぶため、パリへ渡る。音楽院では、周りの生徒の表現力や演奏技術の高さに圧倒された。それからは鍛錬の日々。空いた時間の全てを練習に充て、1日12時間以上弾き続けることも。指の基礎的な動きからピアノの奏法を見直し、世界的演奏家のコンサートにも足繁く通うことで表現力と感性を磨いた。24歳の時に臨んだクロード・カール国際ピアニコンクールではアルベニス賞を受賞。以降はフランス各地やスペインで演奏活動を行いながら、複数の音楽院で研鑽を積んだ。

「体の無駄な動きは少なく、過度な味つけをせず、曲の持つ魅力をストックに表現する」。パリで8年を過ごし、歴史ある芸術を肌で感じながら、技術を磨き続けた清水さんの演奏へのこだわりだ。
パリからの帰国後は、演奏活動の傍ら手探りで講師活動も始め、徐々に現在の形へ。ピアノ教室では「何よりも上達の喜びを！」をモットーに、パリで学んだ技術を伝え、子どもたちがピアノを通して豊かな心を育めるよう指導に励む。
「私にとってピアノは、人生の全てです」と語る清水さん。彼のピアノへの溢れる想いは、白と黒の鍵盤から無限の色彩となつて、今日も聴く人の心に鮮やかな彩りを映す。(泰)

